

人形劇の名舞台を振り返る

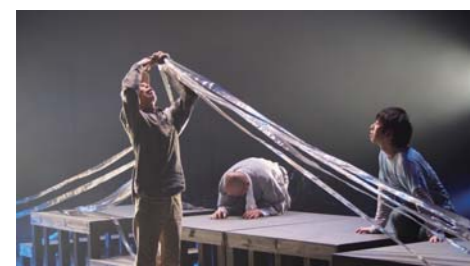
Play Back the Stage



2008 人形劇サークルえぶろろん公演チラシ



2006 『NARUKAMI〜封印と開放〜』(歌舞伎十八番「鳴神」より)公演風景



2017 劇団オレンヂスタ『いかものぐるい』公演風景

今回は、私ゆみだてが個人的に印象に残っている作品をいくつか紹介します。

まずは、人形劇団えぶろろんの『たけしの夏』という作品。アマチュア劇団の作品ですが、私の中でとても印象深くに残っています。2008年11月24日にひまわりホールで上演されたこの作品は、ゲームばかりしている小学生たけしが夏休みにおじいちゃんに住む田舎で過ごしながら、畑で野菜に触れたり、川で魚を捕まえたりする体験をして少しか成長する、という物語です。とても丁寧に作られた人形と、生き生きとした演技に素直な感動を覚えました。畑で初めてきゅうりに触れ、そのとげに驚くたけしに、おじいちゃんが「たけし、きゅうりが痛いか!」と言って豪快に笑うシーンが、本当に温かくて大好きです。現在、人形劇団えぶろろんは活動休止されていると聞きますが、いつかあの作品が復活して、多くの子どもたちに観てもらえたらいいと思っています。

次は、2006年4月22日にひまわりホールで上演された『NARUKAMI〜封印と開放〜(歌舞伎十八番「鳴神」より)』です。これは、パペットアーク(香川県東かがわ市のとらまる人形劇研究所にて2003年に開校された人形劇学校)第2期生の卒業作品でした。「鳴神」の台本を手にした宇宙人が「鳴神」ごっこ遊びを始める、という設定で、出演者たちはサングラスをしてラジコンを操作。人形劇駆け出しだった私は「なんじゃこりゃ」と衝撃を受けたのですが、周囲のベテラン勢も「これは人形劇ではない!」と半ば怒り(?)気味に興奮していたのを覚えています。思えばこのあたりから「人形劇か、そうでないか」「人形劇とは何か」と私も考え始めた気がします。初演時のチラシにも「人形劇とは何か」を問う文言があり、確かにインパクトを与えた作品だったと思います。

最後は、2017年の劇団オレンヂスタ第七回公演『いかものぐるい』(作・演出:ニキノコスター)です。オブジェクト・パフォーマンスの要素を取り入れた作品で、大きな黒ビニール袋やテープを遣い、記憶、世代、感情の分断を視覚的に表現。ぬらぬらとした黒ビニールが照明の中でうごめく様子は、不安や恐怖、グロテスクな真実を予感させ、舞台上に打ち捨てられた抜け殻のような黒ビニールの山も、日常で見えぬふりをされている不都合な真実が確かに存在しているということ、強く印象付けられる演出でした。オレンヂスタは人形劇センター「P新人賞」も受賞しており、今後もオレンヂスタに続いて人形劇的な表現方法に挑戦する劇団が増えてくれればと期待したいところです。

愛知人形劇センター理事 ゆみだてさとこ

お知らせ 愛知人形劇センター理事の Changが第37回芸術創造賞を受賞

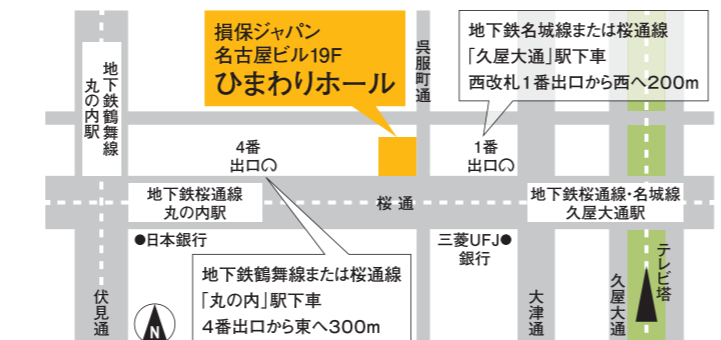


Chang (兵藤禎晃) 道化師。パフォーマー、アーティスト。元モンゴル国立サーカス道化師ハドガーにサーカス芸を師事するなど国内外で道化を学ぶ。モンゴルやアメリカなどで海外公演にも多数出演する一方で、文化庁・文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)講師を務めるなど講師歴も多く、離島や小人口地域でのワークショップ等の活動を積極的にしている。近年はパペットシアターゆめみトラックや現代舞踊協会の公演に出演するなどジャンルの枠を超えた活動も多い。

愛知人形劇センター理事のChang(兵藤禎晃)が第37回芸術創造賞を受賞し、10月7日に授賞式が行われました。名古屋市芸術創造賞は、名古屋の文化芸術振興の一助にと、故・亀山巖氏(初代理事長)から昭和59年に寄付を受けた3,000万円を基金とする賞です。名古屋市の文化芸術の向上と発展に寄与した方に贈る年度賞で、前年度の4月1日〜3月31日における芸術創造活動が特に顕著で、今後の活躍が大きい期待される個人又は団体に贈られます。Changは、2018年にラストラダカンパニーを創設し、「コメディ・クラウン・サーカス」を率いて厚生労働省児童福祉文化賞を受賞。また自身が制作、出演した「サーカスの灯」は厚生労働省推薦児童福祉文化財に認定されるなど、パフォーマンスの中にドラマチックな表現の盛り込まれた活動が高く評価され、今回の受賞に至りました。



名称変更のお知らせ 2020年4月1日からの社名変更に伴い、会場名が「損保ジャパン人形劇場ひまわりホール」となりました。



特定非営利活動法人
愛知人形劇センター
〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-22-21
損保ジャパン名古屋ビル8F
TEL 052-212-7229 FAX 052-212-7309
http://aichi-puppet.net/ MAIL: mail@aichi-puppet.net

愛知人形劇センター 通巻318 2022年冬号
ひまわりホール情報誌 発行: 特定非営利活動法人 愛知人形劇センター
発行人: 高橋一元
編集人: 中康彦
デザイン: 江利山浩二 (KINGS ROAD)
編集: 小島祐未子 (楽苑の編集局)



世界が認めた傑作 名古屋初登場



人形劇団ブークソフィア人形劇場公演「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」